

1. 基本情報 \*講師や諸般の都合により、プログラム内容が変更になることもあります。予めご了承ください。

1) 研修コース名 :	稲作技術向上 (普及員) (A) コース
2) 担当者名 :	武田 翔吾 (研修コース委託先業務総括 : 宍戸氏)
3) 期間 (日数) :	8月26日 (月) ~8月30日 (金) 5日間
4) 定員 :	受入人数 2人程度
5) 言語 :	英語 (実施内容を英語実施のため理解できること) ※目安 (TOEIC600点程度) <span style="color: red;">必ずしもTOEIC等の点数が十分でなかったとしても、積極的に研修員と言語・非言語のコミュニケーションを取る姿勢を有すること。</span>
6) 主な対象学生 :	生物学系、農学系、開発学 (但し、農業に係るフィールドを基礎) 関係の学部3年生以上及び大学院生が望ましい。
7) 研修員の出身国 :	カメルーン、エチオピア、ガンビア、ギニア、リベリア、マダガスカル、マラウイ、フィリピン、ウガンダ

2. コンテンツ

本プログラムの目的	実験・実習を通して稲作技術 (特に収量調査) を理解するとともに、研修員との交流を通じて異文化を理解する。
-----------	---

日程表

No	日付	曜日	時間	テーマ	概要
1	2024/8/26	月	09:15-09:30	プログラムオリエンテーション (日本語)	関係者紹介、プログラム説明、諸連絡等
			09:30-12:15	前週に実施した新潟研修旅行振り返り	
			13:30-16:00	稲の害虫② (講義)	
2	2024/8/27	火	09:30-12:15	収量調査・収穫について① (サンプリング手法)	・ 共通実験・実習では、坪刈り、五斜線法による収量調査を行い、その後バインダーやコンバインによる収穫作業を実習する。
			13:30-16:00	五斜線法サンプリング実習	
3	2024/8/28	水	09:30-12:15	収量調査準備	
			13:30-16:00	収量調査準備	
			16:15-16:45	中間レビュー (日本語)	
4	2024/8/29	木	09:30-12:15	光合成と乾物生産②	・ 課題別実験-収量調査では、実験グループ別に、区画ごとにサンプル株を刈取り収量および収量構成要素を比較検討し、稲の特性を理解する
			13:30-16:00	農民学校 (収穫準備)	
5	2024/8/30	金	09:30-12:15	農民学校 (収穫) 【Session-10】	
			13:30-16:00	農民学校 (収穫) 【Session-10】	
			16:00-16:30	プログラム振り返り (日本語)	

3. 留意事項

<ul style="list-style-type: none"><li>・ 上記日程表は現時点での案であり、稲の生育状況、天候等の都合により変更の可能性があります。</li><li>・ JICA筑波の圃場における作業 (収穫及び収穫前の収量調査やサンプリング作業がメイン) を行いますので、研修員同様に水田内に入り稲刈り鎌を使います。そのため長靴 (田植え長靴ではない) と手袋、作業ができる服装 (帽子を含む)、雨除けのレインコートを持参してください。</li><li>・ 開始時間には時間厳守で集合してください。終了時間は、作業の関係で遅れることがあります。</li></ul>
---

4. 学生さんへ一言

国内での国際協力現場を体験できます。研修実施関係者や研修員と積極的に関わることで、稲作技術以外にも、多くのことを学べる実りあるプログラムとなります。英語でのコミュニケーションになりますが、積極的な参加をお願いします。
--

5. その他

・ 一定の自然科学的知識を有している学生を対象として想定しているため、文科系の方には分かりにくい部分があることをあらかじめ了承の上ご参加下さい。
--